



授業を受ける留学生

受け入れに関しては、35カ国1地域からの約500名の留学生が金沢大学で学んでいます。大学院および学域において正規生や非正規生として学ぶ留学生は、それぞれの関心に合った授業を履修し研究活動に参加するほか、留学生センターの提供する日本語のコースでも学んでいます。また、留学生センターも「金沢大学短期留学プログラム」(KUSEP)や「日本語・日本文化研修プログラム」(日研生)、「セメスタープログラム」などの独自のプログラムを提供しています。ジョイントクラスなどの授業においては、留学生と日本人学生が同じ教室で学ぶことで互いに切磋琢磨しています。



企業研修旅行意見交換会

日本人学生の海外留学に関しては、学生交換の覚書を締結した提携大学に、毎年約50名の学生を派遣留学生として半年ないしは1年間、送り出しています。また、アメリカ、ドイツ、中国などの交流協定校を中心に、さまざまな短期語学コースを開催し(2010年度は7カ国9校)、毎年100名以上の学生が参加しています。2009年度からは地元企業との提携により中国での企業研修旅行が始められ、また、海外インターンシップも2010年度から開催されています。

さらに学内には「国際交流室」や「VOTAK」(Volunteer Tutors' Association of Kanazawa University)などの学生交流団体があり、留学生との積極的な交流がなされています。来日間もない留学生の頼りになる存在がチューターです。個別に学習活動や生活面での支援を行います。チューター自身にとっても海外に目を向ける大きな契機となっています。

2. 世界とつながる金沢大学 (II) 留学生との交流

金沢大学は、「東アジアの知の拠点」「環日本海の基幹大学」(金沢大学憲章)として、世界の大学・研究機関との教育・研究分野における交流を積極的に推進しています。研究者個々の国際交流は当然多岐にわたりますが、大学が機関として交流している大学・研究機関も、2011(平成23)年5月現在、31カ国1地域の145機関に及びます(部局間も含む)。



「金沢百万石まつり」の踊り流しに参加する留学生



国際交流会館